



CHALLENGING SPIRIT

～ 海洋インフラを支える技術者たち～

vol.6

国内有数の農畜産地として知られる南九州地域。その産業を支える志布志港では、現在、太平洋の波浪から港湾機能を守るために防波堤の延伸工事が進められている。

この日行われていたのは、防波堤の本体構造となるケーソンを設置するための基礎マウンドの築造作業だ。水深約19mの海底に、高さ4mの台形状の石積み土台を築くため、ガットバージ船から投入された大量の基礎捨石を、潜水士たちが水中で一つひとつ手作業で均して

いく。水平精度は許容誤差わずか±5cm。

この現場を統括するのは技術者歴30年の崎原靖義所長(監理技術者)。厳しい海洋環境と向き合いながら、多岐にわたる関係者との調整を円滑に進める現場マネジメントは、所長の腕の見せ所だ。

これまで海外を含む30か所の現場で経験を積んできた崎原所長はこう語る。「現場一つひとつが、自分の中に新たな“引き出し”をつくってくれる。その積み重ねが、技術者としての自分を大きく成長させてくれた」。

撮影/文：西村尚己(2025年9月9日撮影)

工事名：令和7年度志布志港(若浜地区)防波堤(沖)築造工事

発注者：国土交通省九州地方整備局

受注者：りんかい日産建設株式会社

＜プロフィール＞

西村尚己 /Naoki Nishimura

株式会社アフロの fotograffer(アフロスポーツ所属)。1994年、大阪大学大学院工学研究科修了後、運輸省(現国土交通省)入省。本省、北海道開発局、中部・近畿・九州地方整備局、下関市、中部国際空港㈱でインフラ整備に携わりながらアマチュアカメラマンとして活動。2016年、同省を退職し、アフロに入社。オリンピックをはじめ国内外のスポーツ撮影を中心に活動中。

